

## 2 交通事故対策について

斉藤清明の質問内容	主な答弁内容
<p>           昨年本市における交通事故の状況は、政令指定都市の中で人口10万人当たりの人身事故件数がワーストワンとなった。不名誉なことである。         </p> <p>           昨年の5月議会で、事故発生件数の約半数である交差点事故対策として、データベース化をして科学的分析に基づいた対策と行動計画の策定について、市長答弁で「データベース化の検討と年度ごとの事故削減に向けた具体的な実施計画を作成する」とのことであった。         </p> <p>           また、具体策として濃淡色平面シートにより立体的な視覚標示となり、スピードを抑制することのできる貼付式路面標示の活用が有効ではないかと考えることから、以下の2点について伺う。         </p> <p>           (1) 交差点事故対策としてデータベース化と実施計画の現状と、なぜワーストワンになってしまったのか伺う。         </p> <p>           (2) 貼付式路面標示を交通事故削減対策に活用できないか、また交差点事故削減に向けての対策をどのように考えているのか伺う。         </p>	<p> <b>【市長】</b> </p> <p>           データベース化については、静岡県警察本部から情報提供を受け、市内全域の事故発生箇所や原因などの実態を地図上に示し作成した。このデータベースを活用し、年度ごとの実施計画を10月頃を目途に策定しているところ。交差点における出合頭事故や高齢ドライバーが起因する事故の増加がワースト1になった原因であると考えている。         </p> <p>           立体的に見える路面表示については、運転者が路上障害物として誤認する危険性も含んでいるため、設置については更なる検証が必要。公安委員会とも連携を図り、ハード・ソフトの両面から安全対策の強化を図っていく。         </p>